(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2010年8月17日(火) NO 136
地域から明るい未来を作ろう

私が一番きれいだったとき

わたしが一番きれいだったとき
街々はがらがら崩れていって
とんでもないところから
青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達が沢山死んだ
工場で　海で　名もない島で
わたしはおしゃれのきっかけをおとしてしまった

わたしが一番きれいだったとき
だれもやさしい贈物をささげてはくれなかった
男たちは挙手の礼しか知らなくて
きれいな眼差しだけを残し皆発っていった

わたしが一番きれいだったとき
わたしの頭はからっぽで
わたしの心はかたくなで
手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争でまけた
そんな馬鹿なことってあるものか
ブラウスのうでをまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき
ラジオからはジャズが流れた
禁煙を破ったときのようにくらくらしながら
わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき
わたしはとてもふしあわせ
わたしはとてもとんちんかん
わたしはめっぽうさびしかった

だから決めた　できれば長生きすることに
年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのように
ね

茨木のりこ詩集

美しい生き方

多くの女が男に求めることは二つある。一つは「尊敬」もう一つは「信頼感」です。女の信頼感は、この人なら「自分を幸せに」してくれるという気持ち。太古からの遺伝子です。

「きれいと美しいは違うんだ。きれいは目から入る。美しいは心に響く。できることなら美しさに一歩でも近づきたい」
生き(死に)方をね・・。

どうでも「いい人」

男は「ものわかりのいい人」になる必要はない。男は基本的に硬派であるべし。知性も教養もあるうえ、理不尽や不正義に一歩も引かない勇敢さを持ちいついかなるときにも自分の考えをしっかり持って、決してぶれない。だれが何といおうと、自分の生き方の筋を通す。ゆずるところはゆずるが、絶対にゆずれないところは断固して押し通す。

すべての重大な決断は、自分の中にある動機から生ずるものです。したがい動機はなんなのか、経緯などから、如何に繕うとも不自然で不純な動機は自然にあぶり出されるものです。

狡猾で狭隘な思考は、社会のためか、会社のために決断したのか、それとも自分のために決断したのか、心ある人の目には明らかなのです。

現在を過去のように見る。歴史は結果のように見えるものです。

あのひとは「いいひと」です。